

大学生の環境活動の活性化をめざして

啓太……大学4年生★、東京在住、2008 エココンの大学生代表

飛翔……大学2年生★、埼玉在住、2009 エココンの大学生代表

今号は、全国大学生環境活動コンテストを支える大学生スタッフに話を聞きました。



啓太

飛翔

★学年は取材当時（2009年2月）のもの。

日本全国大学生環境活動竞赛（通称：環境竞赛 / Eco Con） / 全国大学生環境活動コンテスト（通称：エココン）

日本全国大学生環境活動竞赛は以开展環境活動の大学生団体を対象、由从事与環境相关的各界社会人士以及学生评委进行公开评选，从多方面、多角度对学生开展的环境活动进行评价和表彰。该竞赛从2003年开始每年举办一次。竞赛的主要目的是希望通过评选活动，使得在日本全国开展环境活动的各个团体能够共同分享相关知识和技术信息，相互学习，激励大学生参加环境活动的热情。该竞赛的联合主办方——东京电力，将环境活动作为企业社会责任（CSR, corporate social responsibility）的一环，从各方面协助竞赛的运营工作。在为时两天的会期中，包括参赛人员在內，大约有1,000多人参加。竞赛的执行委员会主要由从事环境活动的社会人士组成，而竞赛的策划与运营则由执行委员会下属的事务局工作人员具体操办。事务局的常勤成员由20～30名学生及数名社会人士组成。

Q：2008年12月に6回目のエココンが2日間にわたって開催されました。このエココンには何団体が参加しましたか。また、選考の過程を教えてください。

啓太：58団体が参加しました。1日目は58団体を8グループに分け、グループ内で発表を行い、各グループで1団体を選びました。そして、選出された8団体で2日目に最終選考を行いました。各団体は5分間という短い時間のなかで自分たちの活動内容を発表しました。また、エココンではコンテスト以外にも、テーマごとに討論を行ったり、環境問題の専門家の話を聞いたりする分科会や展示コーナーなども設けています。



© Ecocon 2008

演劇仕立てにしたり、踊ったりと、団体ごとに工夫をこらした発表を行う。

Q：どういった活動に対する評価が高いですか。

飛翔：今年は、八つの大学の学生が集まって活動している名古

屋の団体が最優秀賞を受賞しました。この団体は、地域の映画館と連携して再利用できるコップを導入したり、レストランからもらった廃食用油や竹の間伐材を使ってキャンドル（ろうそく）を作ってキャンドルナイト（時間を決めて電灯を消し、ろうそくの明かりだけで過ごすという活動）を行ったりしています。

啓太：前回のコンテストでは、携帯電話から見る事ができるホームページに環境クイズを作成している団体が最優秀賞を受賞しました。前々回は地球にも人にも優しく、気軽に取り組める行動を、おしゃれに楽しくわかりやすく提案する無料情報誌を発行している団体が最優秀賞を受賞しました。また、地域の活性化や教育などの分野に環境活動を広げている団体や、活動の成果がすぐには見えなかったり、数値では測りにくかったりする団体の活動も評価されていると思います。

飛翔：参加している団体の活動内容は、実にさまざまです。ごみ問題に取り組むところもあれば、環境教育など啓発に力を入れるところもあるし、海外で環境調査をしている団体もあります。

Q：なぜエココンに関わるようになりましたか。

啓太：大学の外で、社会に目を向けた活動をしたと思っていました。わたしは環境活動に直接関わってはいませんが、大学生を対象とするコンテストを大学生が企画し運営していることと、環境問題をコンテストの素材として使っているというのがおもしろいと思いました。

飛翔：環境問題は毎日のようにメディア（新聞やテレビ）で取り上げられていますが、自分には何ができるんだろうと考えました。そこで、「身近なところから変える」ことを目標にしている大学内の環境活動サークルに入って活動することになりました。大学生協同組合と協力してレジ袋を削減したり、大学と協力して学園祭で使う使い捨て容器をリサイクルしやすい容器にしたりしています。でも、大学内だけでなく、他大学の学生や社会人ともいっしょに何かをやりたいと思いました。

Q: なぜコンテストの形式をとっているのでしょうか。

啓太: スタッフになった当初は、なぜコンテスト形式でやるのかと悩むこともありましたが、ただ並べて見せるだけの品評会ではなく、コンテストの形式をとるからこそ、それぞれの団体が自分たちの強みをより明確に打ち出すし、他団体はそういった発表を見て学ぶことも多いのです。

飛翔: 参加する団体は、エココンで自分たちの活動をアピールするために、これまでの活動を冷静に振り返り、今後の活動をみんなで話し合います。エココンに参加した多くの団体から、今後の課題だけでなく、自分たちの活動のいいところを再発見でき、次に進む道筋が見えた、といった感想が寄せられます。わたしも悩んだことがありましたが、そういった感想を聞いて、コンテストの形式でいいのだと思うようになりました。

啓太: ただ、活動を点数化して単に優劣を競うのではなく、参加する団体の活動が次の年に、より活性化するようなコンテストにしたいと思っています。そのために、エココンでは、選考以外の場も大事にしています。例えば、2008年のエココンでは、選考のあとでグループごとに、今後の活動に生かせるものは何かについて意見交換をしました。また、グループ討論や交流会を積極的に設けています。

Q: 今後エココンがどのようになっていけばいいと思いますか。

飛翔: 今、ちょっとした環境ブームで、大学でも環境活動をするサークルが多く生まれています。でも、一方で、環境サークルに入っている人は、周りの友達から、「すごいね」という感じで見られたりします。「すごいね」じゃなくて、「ああ、そうなんだ」というように普通に見られるような状況になればいいなと思います。そして、普段、環境活動をしていない人でも気軽に来て、楽しめるようなエココンにしたいと思っています。

Q: エココンに関わって、どんなことを学びましたか。

啓太: 割り箸をやめるためにマイ箸を持ち歩いたり、レジ袋を削減するためにマイバッグを持ち歩いたりする取り組みを見て、そういった取り組みがすぐに温暖化を止められるわけじゃないし、マイ箸やマイバッグが本当に環境にいいのかわからないじゃないか、と思っていました。でも、そういった活動はそこで終わるのではなく、多くの人を巻き込んだり、地域を活性化したりしながら、広がっていくことがわかりました。だから、環境問題をただそれだけで考えるのではなく、社会のいろいろなものとのつながりのなかで考えながら、環境問題に関わっていきたいと思うようになりました。

飛翔: エココンに参加した団体や選考委員から、「学生の熱い気持ちに動かされた」「わたしたちの思いがわかっただけでうれしい」といった声をよく聞きます。人は、最終的には、頭よりも心で動くものだと思うので、自分の思いをほかの人にちゃんと伝えるように心がけるようになりました。そして、自分の小さな力が社会にいい影響を与えられるようなところで働きたいと思っています。



学生スタッフ。

わたしの好きなもの

好きな言葉

啓太: 全力疾走

飛翔: 志高頭低



趣味

啓太: スポーツ。スポーツをすることもみることも好きです。

飛翔: ミュージカル鑑賞です。(特に「レ・ミゼラブル」が好きです。20回以上みました)

好きな色

啓太: いろいろな色。その時の気持ちを表す色が好きです。

飛翔: 赤です。人を元気にしてくれるから。



好きな場所

啓太: たくさんありますが、旅行で行った京都は気持ち落ち着いて大好きになりました。

飛翔: 家です。家族の温かさ、ありがたさを感じることが出来るから。